令和7年1月教育委員会定例会議事録

- 1 日時 令和7年1月21日（火） 午後2時から
- 2 場所 鈴鹿市役所 本館11階 教育委員会室
- 3 出席 教育長（廣田隆延）
教育委員会委員（笠井智佳、松嶋康博、服部直美、加藤貴也）
- 4 議場に出席した職員
教育委員会事務局教育次長（伊川歩）、教育委員会事務局参事（西村佳代子）、参事兼教育総務課長（鈴木明）、参事兼教育政策課長（白木敏弘）、学校教育課長（藤見忠）、教育指導課長（上田由実子）、教育支援課長（鈴木康仁）、文化財課長（大窪隆仁）、書記（木葉健介）、書記（久住孝大）
- 5 議事
（1）専決（鈴鹿市学校給食費等に関する要綱の一部改正）の承認について
（教育総務課）
- 6 報告事項
（1）大黒屋光太夫記念館 令和6年度特別展について（文化財課）
（2）佐佐木信綱記念館 令和6年度特別展について（文化財課）
（3）鈴鹿市文化財保存活用地域計画について（文化財課）
- 7 その他
（1）令和7年2月教育委員会定例会の開催について（教育総務課）
- 8 傍聴人1名

（教育長）皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から令和7年1月教育委員会定例会を開催します。開催に先立ちまして、皆様に御報告申し上げます。

本日の定例会ですが、所用により松嶋委員が欠席されます。しかしながら、本日は、委員の過半数が出席いただいておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により会議を開催することといたします。本日の議事録署名委員は、笠井委員をお願いいたします。

(教育長) それでは、議事に入ります。議案第 2159 号「専決（鈴鹿市学校給食費等に関する要綱の一部改正）の承認について」をお諮りします。

(書 記) 議案を朗読

(参事兼教育総務課長) 提案理由でございますが、鈴鹿市学校給食費等に関する要綱の一部を改正するについて、鈴鹿市教育委員会の教育長への事務委任等に関する規則第 3 条第 1 項の規定により専決したので、同条第 2 項の規定により、この議案を提出いたします。

(参事兼教育総務課長) それでは、私からは議案第 2159 号「専決鈴鹿市学校給食費等に関する要綱の一部改正の承認」につきまして、説明申し上げます。議案書の 2 ページを御覧ください。学校給食費の納付方法のうち、口座振替により納付できる金融機関である株式会社中京銀行が、令和 7 年 1 月 1 日をもって株式会社愛知銀行と合併し、株式会社あいち銀行となりましたことに伴い、要綱の一部を改正する必要が生じたものでございます。改正内容につきましては、株式会社中京銀行から株式会社あいち銀行に変更するものです。なお、当該案件につきましては、本来であれば合併前の令和 6 年 12 月教育委員会定例会で御審議いただくところではありますが、12 月教育委員会定例会の開催時点で、合併の条件である関係当局の金融庁の認可が発出されていなかったため、専決処分とし、令和 7 年 1 月 1 日から施行しております。説明は以上でございます。よろしく御審議いただきますようお願いいたします。

(教育長) ただ今の議案に御質問、御意見がございましたら、お伺いしたいと思います。

(教育長) ほかによろしいでしょうか。それでは、御意見もないようですので、お諮りします。議案第 2159 号「専決（鈴鹿市学校給食費等に関する要綱の一部改正）の承認について」を原案のとおり承認することに御異議はございませんでしょうか。

(委員一同) 異議なし

(教育長) 御異議がないようですので、議案第 2159 号を原案のとおり承認いたします。

(教育長) それでは、次に報告事項に移ります。報告事項 1 番目の「大黒屋光太夫記念館令和 6 年度特別展について」をお願いいたします。

(文化財課長) 報告事項 1 番目の「黒屋光太夫記念館令和 6 年度特別展について」を説明申し上げます。大黒屋光太夫記念館では、1 月 23 日（木）から 3 月 16 日（日）まで「吉村

昭「大黒屋光太夫」をめぐる旅」と題し、特別展を開催いたします。吉村昭先生は、漂流という事象に魅了され、ライフワークの1つとして漂流者を追いつけた文学者でした。小説「大黒屋光太夫」では、光太夫の漂流から帰国後までの壮絶な物語が描かれています。毎日新聞に平成13年10月から翌年にかけて連載され、平成15年に単行本が刊行されました。連載終了後、吉村昭先生は、「この小説を書く間、死にたくない、と何度か思い、どうしても書き終えたいと願った。それが果たせたことに、満ち足りた思いである。」と語り、文庫版のあとがきでは「今後、漂流記を書く気持ちはない」と語っています。この作品は、吉村先生の漂流文学の終着点であったとすることができるでしょう。吉村昭先生の歴史小説は、史実に忠実であろうとするがゆえに、徹底的に史料にこだわり、収集・調査し、より客観的な歴史像を作り上げていったことに特徴があります。今回の特別展では、その過程がわかるように小説とそのもとになった資料を比較できるように展示いたします。史料からいかに小説世界が紡ぎ出されるのか、歴史と文学の楽しみを伝えられる展示をめざします。鈴鹿出身の大黒屋光太夫の魅力に改めて触れていただく機会となれば幸いに存じます。以上、報告とさせていただきます。

(教育長) ただ今の報告に御質問、御意見がございましたらお伺いしたいと思います。

(教育長) それでは、御意見もないようですので、次の報告事項に移ります。報告事項2番目の「佐佐木信綱記念館令和6年度特別展について」をお願いいたします。

(文化財課長) 報告事項2番目の「佐佐木信綱記念館令和6年度特別展について」を説明申し上げます。佐佐木信綱記念館では、1月22日(水)から3月16日(日)まで「信綱を彩った画家たち」と題し、特別展を開催いたします。佐佐木信綱は、学者や歌人はもとより、芸術界の人々と多くの交流がありました。今回の特別展では、信綱の歌集の装丁や挿絵のほか、明治期から活躍した著名な画家たちとの親交の深さが伺える書簡などを紹介します。近代日本画壇の川合玉堂、小杉放菴が信綱に送った葉書や、安田靉彦が信綱に送った書簡など、画家たちの葉書に描かれた絵や筆跡も見どころです。「信綱を彩った画家たち」を通して、改めて佐佐木信綱を知っていただく機会となれば幸いです。以上、報告とさせていただきます。

(教育長) ただ今の報告に御質問、御意見がございましたらお伺いしたいと思います。

(笠井委員) 今回、2つの記念館で同時期に特別展が開催されるということで、例年、この時期に鈴鹿市としてこういった特別展や文化財のアピールをしている理由などがありましたら、教えていただけましたらと思います。

(文化財課長) 令和4年頃までは、一方は秋頃、もう1つは冬頃にということで、別の時期に開催しておりました。文化財課文化財グループに学芸員が2名おりまして、共同してそれぞれの特別展を開催することができるという利点がありましたので、そのように開催しておりました。しかしながら、昨年度も他の業務の関係で、特に今年度につきましては、秋に全国重要無形文化財保持団体協議会鈴鹿大会に合わせて秀作展が開催されるということになりましたので、どうしてもその時期に学芸員がその業務に注力する必要がありました。また、12月からつい先日までも、アイヌ関係の博物館の方から共同展示の依頼がありまして、展示をこの日曜日まで開催しておりました。そのために、この時期の開催となりましたが、本来は、学芸員2名が1つの展示を協力し、一方のサポートができるということと時期を分けて開催しておりましたが、今年度は、他の業務の関係でこのように開催させていただくこととなりました。

(笠井委員) 素晴らしい特別展であると思いますので、学芸員の方々もお忙しいとは思いますが、たくさんの方がお越しいただけるといいと思います。

(加藤委員) 先ほどのお話に関係するところで、今回は偶々、似たような時期に開催するというのですが、例えば、両方に行くと何かあるといったような相乗効果を持たせるような工夫はあるのでしょうか。チラシも素敵ですので、せっかくでしたらたくさんの人に来て欲しいという中で、どのような広報をされているのでしょうか。

また、時期が一緒であれば、両方に行くと何かといったような相乗効果を持たせた方が、良いのではないかと思われましたので、工夫されているこれまでと違う取組があれば教えていただきたいと思います。

(文化財課長) 非常に良い内容の御提案でありますので、こちらもできればよかったですのですが、先ほど申し上げたような状況もありまして、そこまではできておりませんが、広報に2つをまとめて発表させていただくことで、目に触れる機会が増えるということは期待しております。御提案いただいたような両方に行けばというのが、両施設が無料で開放されている施設になりますので、なかなかそういった集客に結びつく特別な取組まではできていないところですので、今後は何かできればと考えてまいります。

(教育長) それでは、御意見もないようですので、次の報告事項に移ります。報告事項3番目の「鈴鹿市文化財保存活用地域計画について」をお願いいたします。

(文化財課長) 続きまして、報告事項3番目の「鈴鹿市文化財保存活用地域計画について」を説明申し上げます。本計画につきましては、令和6年3月の教育委員会定例会で作成について、6月にパブリックコメントの結果について報告をさせていただきました。その後、

文化庁との協議において、いくつかの箇所について修正等を行ったうえで、文化庁へ提出いたしました。そして、令和6年12月20日に国の文化審議会の答申を受け、文化庁長官の認定を受けることができました。なお、今回の12月には、2期目の1市を含め全国で26市町が認定を受け、地域計画認定市町村は194自治体となりました。公表につきましては、ウェブサイトで行っていますが、印刷物として、市内小中学校や県内各市などに配付を予定しております。以上で報告とさせていただきます。

(笠井委員) 前回、この計画書案を報告していただいた時にも、この1冊を見れば鈴鹿市の全てが分かるということですのでごく感動をしました。それが今回出来上がったということで、各小学校や自治体に配布するということですが、実際に小学校の授業の中で鈴鹿市を学ぶということは、おそらく社会の授業などやっているといると思うのですが、この資料を使って実際に授業をすることもあるのでしょうか。

(文化財課長) 前の担当者が教員職でありましたので、学校で役立てていただきたいということで、その思いは非常に強く持っておりました。また、この協議会の方には教育指導課のグループリーダーにも参加していただいております。協議会の方で改めて、教育指導課や教員職の方にも御参加いただき、相談やお願いをしていきたいと考えております。現状では、紙資料をそれほど多くではありませんが、2、3月頃には学校宛に配りたいと考えております。

(笠井委員) 一家に1冊欲しいと思うぐらいの資料であると思いました。こちらはホームページ上で見られるようになっているのでしょうか。

(文化財課長) 令和6年12月20日に文化庁から認定の連絡を受けまして、その翌日には公開させていただいております。

(教育長) 教育委員会事務局の方から活用等について御説明することはありますでしょうか。

(教育委員会事務局参事) 学校教育での活用について、資料95ページからの保存活用に関する方針のところ、97ページに「⑥ 学校教育における学習機会の充実」として項立てしておりますように、今後、ここに記載されていることが教育現場と連携していく内容であると考えております。

(笠井委員) 是非ともよろしく申し上げます。

(加藤委員) 先ほどもお話がありました活用のところで、資料に色々と記載されております

が、これからは「探究」がひとつのキーワードとなって、そこからの提案という形で、子どもたちが探求し、文化財をどうしていこうという提案を受けるといった取組があると非常に面白いのではないかと思います。そういったことで、こちらの資料がしっかりと活かされるということになると思うので、ぜひ活用について御検討いただきたいと思います。

(教育長) 活用について、しっかりと御検討いただきますようお願いいたします。

(服部委員) 非常に貴重な資料であると思います。先ほど、2人の委員も言ってみえたように、やはり小学校、中学校で活用してもらいたいという思いがすごくあります。もし、子どもたちが興味の持てるような活用例などが出てきた場合には、他の小学校、中学校へ紹介していただけると良いかと思います。子どもたちは、地元のことには興味が湧きますし、知りたいという気持ちも大きいので、ぜひ地元のことを知ってもらうきっかけになればと思います。事例集とまではいかななくてもいいので、こんな風に使えますよというのを発信していただけるとありがたいです。

(教育長) それでは、御意見もないようですので、その他事項に移ります。「令和7年2月教育委員会定例会の開催について」をお願いします。

(参事兼教育総務課長) 令和7年2月教育委員会定例会でございますが、令和7年2月12日(水)午後1時30分から教育委員会室において、開催したいと存じます。

(教育長) ただ今の提案に、御異議ございませんでしょうか。

(委員一同) 異議なし

(教育長) 御異議がないようですので、令和7年2月教育委員会定例会を令和7年2月12日(水)午後1時30分から教育委員会室において、開催することにいたします。

(教育長) 以上をもちまして令和7年1月教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

1月教育委員会定例会終了 午後2時20分

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。

教育長 廣田 隆延

委員 笠井 智佳